

## 主題について

指導者 西本真実子(T1)

兵藤 誠 (T2)

## ねらいとする価値

中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳  
編 内容項目B-8「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち、互いに励まし合い、高め合うとともに、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと」に係って主題を設定した。

豊かな人間関係を築くためには、その場だけの関心や、自分に都合の良い相手とだけの狭い交流にとどまることなく、さらに視点を広げ、積極的に生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた友情について考えることが大切である。そこで本授業では、真の友情や友情の尊さについて理解を深め、自分を取り囲む友達との友情を一層大切にしようとする態度を育てていきたい。

## 生徒の実態

本学級の生徒は、1学期に「みんなでとんだ」において、互いに理解し、励まし合って、友情を深めることの大切さを考えた。その際「みんなが一人一人のことがわかることが大切」周りの人を信頼する事も大切」などの記述があり、友情とは相互理解と信頼関係の上に成立するということを理解している生徒も多いことがわかる。一方で互いを高め合うために、自分がどう行動したらよいのかと悩んだり葛藤したりする場面は少ない。そこで、本授業では葛藤しながらも、互いに励まし合い高め合うことの重要性について気付かせ、真の友情を培うために自分はどうあるべきかを考えさせていきたい。

## 教材について

本教材における啓介と康夫は仲の良い友人であり、水泳のトップをねらうライバルでもある。しかし、啓介はなかなか康夫には勝てずに悔しい思いをしていた。ある日、康夫が突然重い病気にかかり入院する。啓介はライバル不在でトップに立つ可能性が出るが、良心の呵責に悩む。一方、康夫は絶望感から啓介の見舞いにそっけない態度をとったことを後悔し、手紙を書くことにする。葛藤しながらも、互いに励まし合い、高め合うことでより強い友情が育まれるという、真の友情について深く考えさせることのできる教材である。

## 考え、議論する道徳科の時間を充実させるために

## ○ 道徳的価値を捉え、自己の生き方を深める発問の工夫

事前に友達に関するアンケートをとり、導入部分でその結果や主な理由を紹介することを通して、ねらいとする価値への方向づけを行う。展開部分では、資料を読んだ感想を聞いた上で二人の関係について考えた事を交流させる。その際、クロス法を取り入れて、自分の立場を明らかにし、その理由を発表することで、お互いの考えの違いに気付かせる。展開後段では、真の友情を培うために自分はどうあるべきかについて考えさせる。これらの活動を通して真の友情や友情の尊さについて理解を深め、さらに充実した生活を送るために自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にしようとする態度を育てたい。

## ○ 他教科・領域や体験活動と道徳科を関連付けた道徳学習プログラムの作成

文化祭・合唱や修学旅行などの行事やそのための準備・練習を通して、自分の立場や役割を自覚し、互いの立場や考えを理解し励まし合い、友達との友情を一層大切にしようとする体験をさせる。これらの取組を通して得られる道徳的価値を、要となる道徳科の授業で学ばせる。

1 本時のねらい

立場の違う二人の主人公の思いを考えることを通して、友情の尊さについて理解を深め、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にしようとする態度を育てる。

2 学習の展開

過程	学習活動 ○主な発問 ●中心発問 △補助発問 ・予想される生徒の心の動きや反応	◇指導上の留意事項 □道徳科学習プログラムとの関連 □発問の工夫 ＊評価
導入	1 アンケート結果を示し、それぞれの考えを確認する。  2 本時の課題意識を持たせる。	◇事前にアンケートをとり、集計しておく。(T 1) ・理由の中から、友達関係について重要なポイントが、本音を言える、信頼関係がある、一緒にいて楽しい、相談できるなどであることをおさえる。 ◇ディスプレイを利用し提示 (T 2)
展開前段	4 教材「ライバル」を読み、啓介と康夫の関係について確認し、教材を読んだ二人の関係についてまとめる。 ・二人は水泳選手。 ・康夫のほうが強い。病気になる。 ・康夫に勝てないとずっと劣等感を持っていた啓介にチャンスがめぐってくる。  5 啓介と康夫の関係について考える。 ○啓介と康夫の関係について考えたことを交流しよう。 「自分が康夫なら、自分の思いを啓介に伝える」 ・伝えなければわかってもらえない。 ・思ったことは言わなければストレスになる。 「自分の思いは伝えない」 ・思いを伝えるのは恥ずかしい。 ・伝えても関係が変わらないかもしれない。 「二人の関係を深めたい」 ・人のことを思える関係は大事。 ・高め合える関係は必要。 「このままでよい」 ・ライバルと友達は違う。 ・二人の態度は友達とはいえない。 △啓介が康夫の見舞いになかなか行けなかったのはどのような気持ちだったからだろう。	◇範読 T 2 ◇説明 T 1 板書 T 2  ◇発問 T 1 ◇タブレット使用 (T 2) ◇縦軸に二人の関係について、「自分が康夫なら自分の思いを啓介に伝える」「自分の思いは伝えない」、横軸に「二人の関係を深めたい」「このままでよい」としたクロス法を用いて、自分の立場を表明し理由を発表する。 ◇板書 (T 2)  ◇考えが深まるよう、T 1・T 2が補助発問をする。

友達との関係を深めていくために、どのようなことが大切だろう

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院にほっとしている自分を見せるのが嫌だった。</li> </ul> <p>△見舞いに来た啓介に対し、康夫がつらくあたってしまったのは何故だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・啓介の言葉すべてがあわれみに感じたから。</li> </ul> <p>△啓介は康夫の見舞いになかなかいけなかったし、康夫は見舞いに来た啓介につらくあたっている。こんなにぎくしゃくした関係は必要なのだろうか。</p>	<p>◇様々な意見を聞いて、考えが変化した場合は、付箋を動かしてもよいことを伝える (T 1)</p> <p>◇考えが変化した後の発表内容は、色を変えて板書する。(T 2)</p>
展開後段	<p>●友達との関係を深めていくために大切なことはどのようなことだろうか。</p>	<p>*友情とはどういうことかについて理解を深め、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にしていこうとしている。</p>
終末	<p>教師の話を書く。 学んだことを道徳プログラム用紙に記入する。</p>	

### 3 板書計画

